

楽観モードの揺り戻しに注意

10

月に入り、ドル円は米経済の先行き懸念から一旦106円台まで円高に振れた後、米中協議の部分合意を受けたリスクオンの円売りによって108円台を回復。足元も108円台半ばで推移している。

ただし、今回の部分合意は、「比較的容易な領域でとりえず合意し、摩擦の激化が一旦先送りされた」に過ぎず、摩擦解消の道筋が開けたわけではない。両国の主張の隔たりは依然大きく、今後も一筋縄では行きそうにない。今回見直されなかった既往の追加関税が世界経済の重荷になり続ける。従って、今後は一旦楽観の揺り戻しによる円高方向への調整局面を迎えると見ている。金融政策面では、FRBによる今年3回目の利下げは市場で織り込み済みだが、日銀が本格的な追加緩和を見送ると予想されることも円高反応に繋がるだろう。

一方で、来年年初に米大統領選モードへ突入することを踏まえると、トランプ大統領に残された時間は限られている。早ければ年末に摩擦の緩和に繋がる合意に向けた動きが現れ、ドル円は持ち直す可能性が高いと見ている。3カ月後の水準は現状程度と予想している。

ユーロ円は、今月、米中部分合意に伴うリスクオンの円売りに加えて、英国とEUとの離脱交渉進展・離脱案合意に伴うユーロ買いを受けて大幅に上昇し、足元では120円台前半で推移している。今後は利益確定的なユーロ売り圧力が予想されること、米中協議が一筋縄ではいかないとみられることなどから、ドル円同様、一旦円高方向への揺り戻しが予想される。ユーロ圏の景気低迷が続くこともユーロの重荷になる。ドル円同様、年末頃からは円安方向に向うものの、3カ月後の水準は現状比でやや円高ユーロ安に留まると見ている。

長期金利は、今月、日銀による国債買入れ減額方針とリスクオンの流れを受けて上昇し、足元は▲0.14%付近で推移している。今後は為替同様、米中協議等を材料に一旦調整で低下した後、年末頃にはリスクオンで持ち直す展開を予想しているが、世界的な金融緩和の流れはしばらく続き、金利の持ち直しを抑制する。日銀も大幅な国債買入れ減額を続けることは出来ないことから、3カ月後は現状より若干低い水準に留まると見ている。



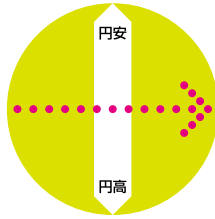
シニアエコノミスト 上野 剛志
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、
2001年同財務審査部配属、
2007年日本経済研究センターへ派遣、
2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、
2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

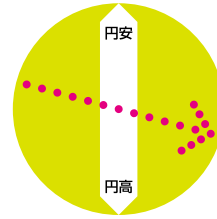


Market Karte

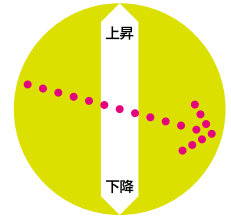
November 2019



ドル円・3カ月後の見通し

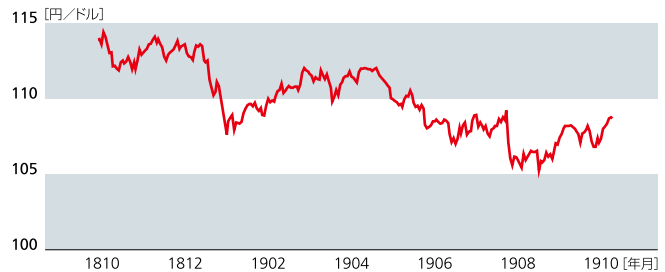


ユーロ円・3カ月後の見通し

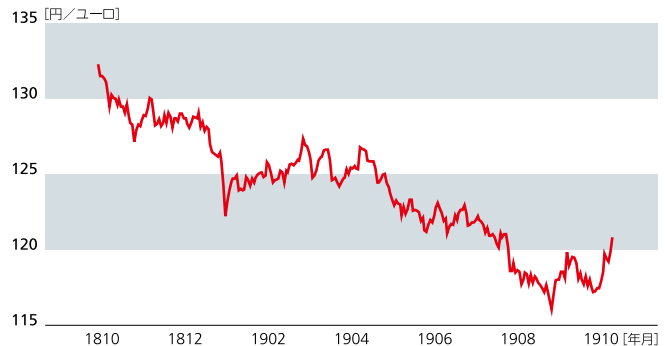


長期金利・3カ月後の見通し

ドル円為替レートの推移[直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移[直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移[直近1年] 資料:日本証券業協会

